

アメリカオリンピック・パラリンピック委員会との調整状況について

1 主旨

東京2020大会時の大蔵運動公園におけるアメリカキャンプ実施について、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、感染リスクを最小限にする運営に向けて、アメリカオリンピック・パラリンピック委員会(以下「USOPC」という。)との調整状況について報告する。

2 キャンプ実施概要

(1) 実施日程

オリンピックチーム : 7月4日～8月16日(公園一部及び全ての運動施設)
パラリンピックチーム : 8月17日～8月28日(陸上競技場のみ)

(2) セキュリティプラン

大蔵運動公園内は、USOPCが専有するエリアと一般エリアとを明確に分け、エリアの境界にアクセスポイントを設置し、通行証の提示等で出入を管理する。

7月4日から8月16日まで大蔵運動公園の一部と運動施設をフェンス等で封鎖する。キャンプ会場内はUSOPC、外周は警察が、警備を行う。

3 キャンプ会場の位置づけ

組織委員会よりハイパフォーマンスセンター(以下「HPC」という。)のガイドラインが示され、大蔵運動公園内の各施設は、7月7日以降、組織委員会が管轄するHPCとして登録される予定。区は施設管理者として、ガイドラインに基づき感染症対策を行う。

4 HPC概要

(1) 定義

組織委員会が受入れ責任者となり、東京2020大会に参加する選手が競技直前の準備を万全に整えられるよう、必要なトレーニングサービス(コンディショニング機能、メディカルケア等)を備える施設をいう。

(2) 登録条件

各国オリンピック委員会(以下「NOC」という。)や各国パラリンピック委員会(以下「NPC」という。)と受入れ責任者間の合意があること。

NOC、NPCと施設管理者間の合意がとれていること。

NOC、NPCより、組織委員会へHPC登録の申請書が提出されていること。

5 感染症対策

区は施設管理者として、HPCガイドラインに基づき、接触感染・飛沫感染の予防策を講じるため、選手やアメリカスタッフとの対面での接触を極力減らすようUSOPCと協議し、以下の感染症対策を実施していく。

(1) 基本的な対策

HPC内に入れる関係者を限定し、関係者以外の立ち入りを不可とし、施設内の消毒の徹底、飛沫対策、換気、三密回避の対策を講じる。

選手の利用エリアは選手の入替わりごとの消毒など、感染症対策を徹底する。

選手との接触を最低限にすることに加え、アメリカスタッフとの対面での接触を極力減らすためにコミュニケーションアプリや無線を活用する。

(2) 選手等の行動管理

選手の行動は競技会場、練習会場、宿泊施設など事前に登録した場所のみに限定する。

移動は公共交通機関を利用せず、専用車両を使用する。

ホテルでの食事は個室を原則とし、自室内へのルームサービスやデリバリーを利用する。

(3) 施設管理者の健康管理・行動管理

キャンプ会場に出入りする全てのスタッフはキャンプ2週間前より、毎日健康観察を行う。

選手等と一定の接触が見込まれるスタッフは、接触アプリ(COCOA)を利用し、他者との接触状況を把握する。

選手等と一定の接触が見込まれるスタッフは、不要不急の外出を控えるなど、行動管理を徹底する。

(4) 検査体制

選手は、検査を選手村にて毎日実施する予定である。

選手と一定の接触がある施設管理者は、接触頻度により毎日又は7日に一度、スクリーニング検査を実施する。

(5) 検査による感染疑い者発生時の対応

選手やアメリカ選手団関係者は、組織委員会が手配する医療機関を受診する。

受入れ側の職員等スタッフについてスクリーニング検査の結果、陽性疑い者が発生した場合に備え、受診対応医療機関及び陽性者発生時の対応を事前に決めておき関係者内で共有する。

6 今後のスケジュール

7月 4日 アメリカキャンプ準備開始

8月17日 陸上競技場のみパラリンピックチーム利用開始

8月28日 パラリンピックチーム利用終了